生産体制・技術確立支援
取組概要
（R3～R4）

『環境に配慮したイチジクのL型肥料を用いた低コストかつ省力的施肥技術』
＝愛知県＝

【全体概要】
県内のイチジクの圃場の多くでリン酸・カリが過剰となっている。そこで、成分を見直すことによりリン酸・カリ成分で30%の削減、施肥量も40kg/10a削減ができる基肥用の新機配合肥料の現地適応性を確認する。さらに追肥の削減も合わせた施肥体系を確立し、施肥の省力化、生産資材コストの低減につなげ県内イチジク産地への導入を進めていく。

新品種・新技術等の概要

表　L型配合肥料　（表品名：L型いちじく有機配合（仮））

	容量 kg	成分(%) N	P	K	Mg	Mn	B
慣行	20	6	5	5	2	0.2	0.1
試験	20	8	2	2	2	0.2	0.1
慣行との差		2	−3	−3	0	0	0

基肥施用量：25%減
基肥価格：15%減
（10a当たり）

表　試験区及び慣行区の施肥体系（一例）

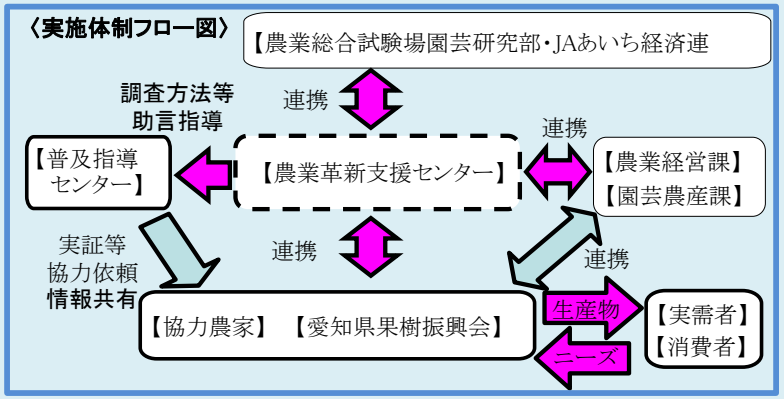
		成分	施用量 (kg/10a)	成分（N-P-K） (kg/10a)	試験区（N-P-K） (kg/10a)	慣行区（N-P-K） (kg/10a)
3月上旬	基肥	L型いちじく有機配合	8-2-2	120	9.6－2.4－2.4	9.6-2.4-2.4	×
		いちじく有機配合	6-5-5	160	9.6-8.0-8.0	×	9.6-8.0-8.0
5月下旬	追肥①	粒状固形30号	10-10-10	20	2.0-2.0-2.0	2.0-2.0-2.0	2.0-2.0-2.0
6月中旬	追肥②	硫酸加里	0-0-50	10	0-0-5.0	×	0.0-0.0-5.0
7月上旬	追肥③	てまなしくん	10-8-10	80	8.0-6.4-8.0	8.0-6.4-8.0	8.0-6.4-8.0
9月下旬	追肥④	ダブルクイック660	16-6-10	5	0.8-0.3-0.5	0.8-0.3-0.5	0.8-0.3-0.5
10月下旬	礼肥	硫酸入り複合肥料S604	16-10-14	10	1.6-1.0-1.4	1.6-1.0-1.4	1.6-1.0-1.4
				計		22.0-12.1-14.3	22.0-17.7-24.9

年間の減肥率
リン酸：31．6%、カリ：42．6%

主な取組内容

○県内8ヵ所の実証ほにおける経時的な土壌分析・葉内成分の結果の検証
→土壌中のリン酸・カリに 大きな変化は無かった。
→葉のリン・カリウム含有率は差は無かった。
○実証ほにおける果実品質、樹勢への影響
→果実品質や樹勢に悪影響は無かった。
○実証ほの試験結果について検討会議を開催した。

実施体制図



農業革新支援センターが中心となり、農業総合試験場・JAあいち経済連と協力し、生産者・実需者・消費者との連携を図りながら事業の調整・進行管理を行う。

課題と今後の対応

○施肥試験のため、県内8ヵ所で、土壌分析・葉内成分調査及び果実品質・樹勢への影響を継続調査して確認する必要がある。

○今後は、調査結果をもとに、慣行の基肥用配合肥料の利用者が多い西三河地域を中心にL型配合肥料の導入の検討・情報l交換会を行い、導入推進を図る。